

予備知識:

ここで紹介するSerthualスケールは、2006年に初めてポルトガル語で検証されました（731人を対象）。この結果は、統計的な意味でも、心理的な意味でも、非常に興味深いものでした。ロジャーズの項目とトゥルース尺度の項目を混ぜた10次元で特徴づけられている。しかし、2011年に2179人を対象に2回目の検証を行った（年齢・性別のバランスを取り、不完全な資料を考慮しないように工夫した）。この2回目の検証により、第1版で得られた10因子（またはサブ因子）を見つけ出し、添付の10次元を構成することが可能になりました。ピエール・タップ、ジョアン・ヒポリート、オデテ・ヌネス

セルフエスティームスケール

S.E.R.T.H.U.A.L.

タップ、P.; ヒポリート、J. & ヌネス、O.

マニュエル

ヌネス、O, タップ、P, ピレス、M, ブライツ、R, ピレス、P,
ラネイロ、T, ヒポリート、J.

リスボン自治大学

インデックス

はじめに	7
1. 一般特性	10
1.1 データシート	10
2. スケールの構築	12
2.1 新しい自己の尺度-S.E.R.T.H.UAL	13
2.2 重要な方法論の革新（ネガティブ項目の非反転）	14
3. 統計的正当性	18
3.1 妥当性	18
3.2 ロイヤルティ	20
3.3 標準化	21
3.3.1 試料の特性評価	21
3.3.2 規範となるグループ	22
4. 天秤の概要説明	23
5. 実施基準	27
5.1 適用範囲	27
5.2 ハードウェア	27
5.3 アプリケーションに関する注意事項	28
5.4 スコアリングとレーティング	29
6. 結果の解釈	29
6.1 定量的評価	30

6.2 定性的評価	30
6.2.1 ポジティブな側面.....	30
6.2.2 ネガティブな次元.....	31

テーブルのリスト

表1.Spearman-

Brown補正を用いたスプリットハーフ法による次元および総尺度の信頼性。 . 20	
クロンバックの表2 S.E.R.T.H.UALのポジティブな次元	20
表3 クロンバックの得点-S.E.R.T.H.UALのネガティブ次元	21
表4.サンプルの特徴（男女別、年齢層別	21
表5.サンプルの特徴（男女別、学歴別	22
表6.S.E.R.T.H.UALの10次元の項目	25

図表の索引

図1：年齢別・性別のN.E.T.E.S.総合得点.....	15
図2.否定的な項目の反転を伴わないN.E.T.E.S.の得点（年齢別.....	15
図3.N.E.T.E.S.におけるポジティブ項目とネガティブ項目の差（反転なし）（年齢別	16

標準的な表 - 年齢層：

対象年齢 13-20 歳

.....

年齢区分21～23歳

.....

年齢区分 24-26

.....

.

年齢区分 27-29

.....

.

年齢区分 30-36

.....

.

年齢区分 37-44

.....

.

年齢区分 45-52

.....

.

年齢区分 53-60

.....

.

年齢層 61-70歳

.....

年齢区分 71-85歳

.....

規範表 - 学歴:

4 年生

.....

.....

Year 9 のスクーリング

.....

.

第 12 学年

.....

.....

高等教育および大学院教育

.....

.....

はじめに

S.E.R.T.H.U.A.L. (*Self-Esteem* Rogers, Tap, Hipólito & UAL) と名付けられた *自尊心尺度*は、自尊心の概念に関する詳細な研究から生まれた尺度であり、ポルトガル人向けに検証されたものである。ロジャーズ *自尊心尺度* (Ro.S.E.S.) と *新トゥールーズ自尊心尺度* (N.E.T.E.S.) の2つの尺度を基に行われた一連の調査の結果である。

自尊心という概念は、心理学の分野で広く研究されているが、その概念化、評価、根底にある考え方については、非常に異なる意見が存在する。

この概念をよりよく理解するために、そしてこの測定器はロジャースのパーソン・センタード・アプローチ理論を理論的基盤としているので、自尊心の定義を提案する前に、それに関連するもう一つの概念、すなわち *自己の概念* を定義することが重要である。

ロジャーズによれば、知覚された *自己* (または *自己概念*、または *自己構造*) は、「意識に利用可能な自己の特性の概念的、組織的、流動的だが首尾一貫した構成」(1954、56頁) と定義されています。この構成は、個人の特性に対する自己認識、他者や環境との関係からくる自己認識、プラスまたはマイナスの価値があると認識されている理想によって形成されている。(Rogers, 1951)。

今日、セルフという言葉は、この同じ定義で米国で使われ、研究され続けている。しかし、欧州の研究者の中には、「コンセプト」という言葉が意味する抽象的なレベルに到達することが難しい人が多いことを指摘する人もいます。また、感情的・実践的なダイナミクスや、対人・対物プロセスが軽視される危険性もあります。もっと頻繁に、私たちは *自己イメージ* や *自己呈示* について話します。これらの著者は、*自己概念* という用語を *パーソナル・アイデンティティ* という用語に置き換えることに関心を示している。個人のアイデンティティは、人が自分自身を定義し認識する、あるいは他者から定義され認識されるための表象および感情のシステムとして定義することができる。 *自己* の概念と異なるのは、個人のアイデンティティが構築の場であり、自分自身や他者との複数の比較の結果であることを示す可能性を常に持っていることです。それは実際、個人の時間において、永続性と継続性（自分自身であり続けること）、ま

たは個人的な特性の変化（自分自身になること、または別の人になること）の観点から、常に求められている。

しかし、個人のアイデンティティは、複数の身体的、社会的、職業的、文化的アイデンティティを（内外で）明確にすることによって、より豊かに、より複雑になっていきます。ある意味、自尊心は個人のアイデンティティを評価する次元です。自尊心の低さは、アイデンティティの問題、個人のアイデンティティへの疑問、その一時的な貧困化などの指標となりえます。

ロジャース（1954）はまた、*自己*の概念化において非常に重要で、基本的でさえある区別を導入している。現実の*自己*あるいは知覚された自己と理想の自己、よりよく言えば、*望ましい自己*の区別である（Grummon, 1969）。筆者にとっては、認識された自己と望ましい*自己*とのギャップが、その人が感じている自尊心のレベルを示す指標となる。

複数の起源を持つ理想や価値が、私たちのあるべき姿の理想化されたイメージの構築に介入するとしたら、この理想化されたイメージは、私たちがなりたいたいと願う存在と混同されることはなく、それは完全でも理想でもなく、いくつかの変化（身体、道徳、知的、職業など）を操作するように私たちを煽り立てるものである。しかし、自尊心は、現実の自己と望ましい自己との間の良好な調律の結果だけではなく、自己が認識し帰属する自己と他者が認識し帰属する自己との関係にも直接的に依存する（Tap, 1988）。したがって、自尊心は、知覚された現実の*自己*、投影された理想的な*自己*、望ましい*自己*、帰属された自己（固定観念または特定の帰属）の間の調音による複雑で多様な産物である。

Tap and Vasconcelos (2004)によれば、自尊心は、言葉で表現され、意味のある行動を伴う主観的な体験と定義されています。その基盤やバリエーションは、その人の自分自身や他者との関係性に依存します。¹

¹ 特に本書の「セルフ・エスティーム」の章を参照されたい。

ピレス (2004) ²

によれば、人々が挿入されるさまざまな文脈の中で自分自身を表現することは、彼らを取り巻くものの経験の仕方に影響を与える要因である。この表現には、すべての主観的な生活体験に基づく、評価的な要素が含まれています。

同様に、自尊心のテーマに関心を持つ他の著者たち (Coll, Marchesi & Palácios, 2004) も、自己認識／評価のダイナミクスは、対人関係、すなわち重要人物との関係の中で生きる受容と感情的支援の経験と、成功と失敗を統合した個人の歴史と結びついていることに同意しています。

L'estime de soi という本の序文にある。発達の視点" (Bolognini and Prêteur, 1998)

は、エスティームという概念が測定 (評価) と価値化 (価値) の両方を意味することを思い起こさせる。自己評価テストは、実際、その人が自分の行動における特定の感情や情動の存在と強さを分析し測定する可能性があること、自分の態度、懸念、行動、潜在能力、プロジェクトについて肯定的または否定的に判断することができることを前提にしています。したがって、この測定は、自分自身についてなされた判断 (例えば、「私は自分について良い気分だ」または「私は恥ずかしがり屋だ」) の価値、プラスまたはマイナスについて、多かれ少なかれ明確に認識していることを意味します。

自尊心は、心理的機能の構成要素として、人々が自分のアイデンティティを主張し、ストレスを誘発する状況に対処する戦略を立て、社会統合スキルを身につけ、人生に意味を与える実存的プロジェクトを練り上げるための変数の力学において、基本的な役割を果たすものです。

したがって、肯定的な自尊心は、人が個人的、職業的、社会的に良好な統合を達成するために、さまざまな戦略や努力をいかに動員するかにかかっているのです。

しかし、自尊心という概念は多次元的に複雑であるため、その測定は単純化すべきではないと

²

ピレス, M. (2004). 加齢と自尊心：比較研究。第6回健康心理学全国大会にて発表した論文。リスボン：カルースト・グルベンキアン財団。

思われる。個人のアイデンティティを構成するさまざまな次元で、その人が自分自身をどのように認識し、評価しているかを評価することは、一般的な自尊心の検証よりも重要であると言えるでしょう。

したがって、**SERTHUAL**スケールは、5つのポジティブな側面と5つのネガティブな側面から構成されており、分析すれば、自己認識に関するその人のプロフィールが得られることになる。

1.一般特性

1.1 データシート

身分証明書

名称 セルフ・エスティーム・スケール - S. E. R. T.H. U. A. L

(ロジャースセルフスティーム、タップ、ヒポリート&UAL)。

テストの著者: タップ、P.; ヒポリート、J. & ヌネス、O.

マニュアルの著者: Nunes, O.; Tap, P.; Pires, M.; Brites, R.; Pires, P.; Laneiro.T.; Hipólito, J.

管理部門: 個人または団体

期間 10～15分

人口: 13歳以上85歳未満

目的: セルフエスティーム（自己評価）の評価

標準化: 得点率

2.スケールの構築

S.E.R.T.H.UALスケールは、Rogers Self-Esteem Scale (Ro.S.E.S.) と New Toulouse Self-Esteem Scale (N.E.T.E.S.) から導き出されたものです。

ロジャーズ自尊心尺度 (Ro.S.E.S.) は、ロジャーズが *Psychotherapy and Personality*

Change (1954) という本の中で報告した研究調査で初めて使用した尺度を翻訳したものである。この研究で、ロジャーズとダイヤモンド (1954) は、セラピーを受けた人々のグループで、コントロールグループと比較して、*自己認識*と認識された自己と望まれる自己の間の不調和に違いがあるかどうかを確認しようとしたのです。

ロジャース (1954) によれば、人は自分自身を知覚し、その知覚を順序付ける能力があり、また、自分が望ましいと考える特性や感情状態を順序付け、結果として望ましい *自己* という *概念* を持つという前提で、この尺度が適用されたのである。これは、与えられた目標に最も近いものから最も異なるものまで、多数の評価判断 (100個) を突きつけられ、9つの山にランク付けするQソートテストであった。

このテストから74問を選び、新しい尺度を作成した。この尺度は、知覚された自己と望ましい *自己* との間のギャップを測定し、個人の一致のレベルを決定するものであった。74項目からなる1つ目の項目は、自分自身についての認識である。第二部も全く同じ74項目で構成され、同じ手順で行われます。ここで意図しているのは、その人が 自分をどのように認識したいかに応じて、 数字をマークすることです。

Nouvelle Échelle d'Estime de Soi de Toulouse (in French, N.E.T.E.S.) は、Toulouse Self-Esteem Scale (E. T. E. S.: Oubrayrie, Safont, Tap, 1991; Oubrayrie, Leonardis & Safont, 1994) から派生した尺度である。

トゥールーズ自尊心尺度の開発にあたり、著者らは既存の尺度 (Coopersmith, 1959; Rosenberg, 1965; Fitts, 1965; Harter, 1982) にヒントを得たが、それらは感情のコントロールと将来の自己評価の領域について調査することができなかった。この尺度は60項目からなり、Emotio

nal Self (ES)、Scholastic Self (SS)、Social Self (SS)、Psychological Self (PS)、Future Self (FS) の5つの下位尺度に分けられています。

新トゥールーズ自尊心尺度 (N.E.T.E.S.) も60項目からなり (Tap, Hipólito, Nunes & Santos, 2004)、30項目は直接肯定的に評価でき (例: 「私は自分に自信がある」)、30項目には回答の逆転を意味する否定的意味があります (例: 「私は活動において簡単に落胆する」)。

各項目について、1～5のリッカート尺度 (1=全く同意しない、5=全く同意する) で回答していただきます。最終的なセルフエスティームスコアは、最低10点から最高50点まであります。

ロジャーズ自尊心³尺度と新しいトゥールーズ自尊心尺度の2つの尺度は、ポルトガル人集団に対して検証されました (Tap, Hipólito, Melo & Tecedreiro, 2004)。この調査は、尺度を検証するだけではなく、因子分析後に最終スコアを計算する際にネガティブ項目を逆にしないことが必要であることを示すことも目的としており、その手順については後ほど説明します。

2.1 新しい自己の尺度 - "the S.E.R.T.H. UAL "

731人のサンプルから得られたデータに基づき、これまでの2つの尺度を比較した結果、これまでの尺度の長所を組み合わせた新しいポルトガル語の自尊心尺度を開発することが決定されました。

因子分析の統計的手法を用いて、両スケールに回答した参加者のスコアの主成分を評価したところ、10個の主な次元が特定され、そのうち5個はポジティブであった (A=一般的自己満足、B=社会的規範の拡大)。C=社会・人格的成熟、D=心理・知的発達、E=社会・学問・職業的発達) と5つのマイナス次元 (F=自己否定・自己卑下、G=人間関係緊張、H=異常障害、I=感情緊張、J=自己嫌悪) です。

3

タップ、P.ヒポリート、J.、メロ、C.&テケデイロ、M. (2004年)。トゥールーズ指数とロジャース指数：喫煙者と非喫煙者間の比較。"変化する世界における健康心理学"。リスボン

両尺度の全項目から因子重みが最も大きいもの（60以上）を選び、S.E.R.T.H.UALに組み込んだ。

2006年には、S. E. R. T. H. UAL (Rogers, Tap, Hipólito & UAL Self-Esteem) という新しい自尊心尺度が⁴に発表されました。ポジティブな5つの次元で統合された30項目のポジティブ項目と、ネガティブな5つの次元で統合された30項目のネガティブ項目の計60項目で構成されています。

2.2 重要な方法論の革新（ネガティブ項目の非反転）

心理学的なアセスメント手法に詳しい読者のために、S.A.S.のことを指摘しておくことが重要だと思われる。E.R. T. H. UAL尺度（およびその構成に用いられた2つの尺度、ロジャーズ自尊心尺度、新トゥールーズ自尊心尺度）は、テストの構成に全く新しい技法を用いて開発されたもので、その正当性を技術および科学の観点から説明します。

多くの自己評価尺度では、当然ながら、対象となる態度や能力を直接的に測定する項目が選ばれています。自尊心の場合、「私は良いセルフイメージを持っている」というように、本人を評価する項目が選ばれる傾向があります。しかし、この項目は逆にマイナス評価、切り捨てを喚起することもあります。例えば、「自分の体が嫌い」。自尊心の総合得点（値、結果）を得るために結果を転記する際、ネガティブな項目は反転させる⁵。ネガティブな自尊心を排除すること（低いポジティブな自尊心に変換すること）は、心理学的にも技術的にも間違いであることを実証できると考えています。

トゥールーズ地方（フランス）で行われた、12歳から20歳の青年2184人の自尊心に関する調査を例にとってみましょう。古典的な手法（負の項目を反

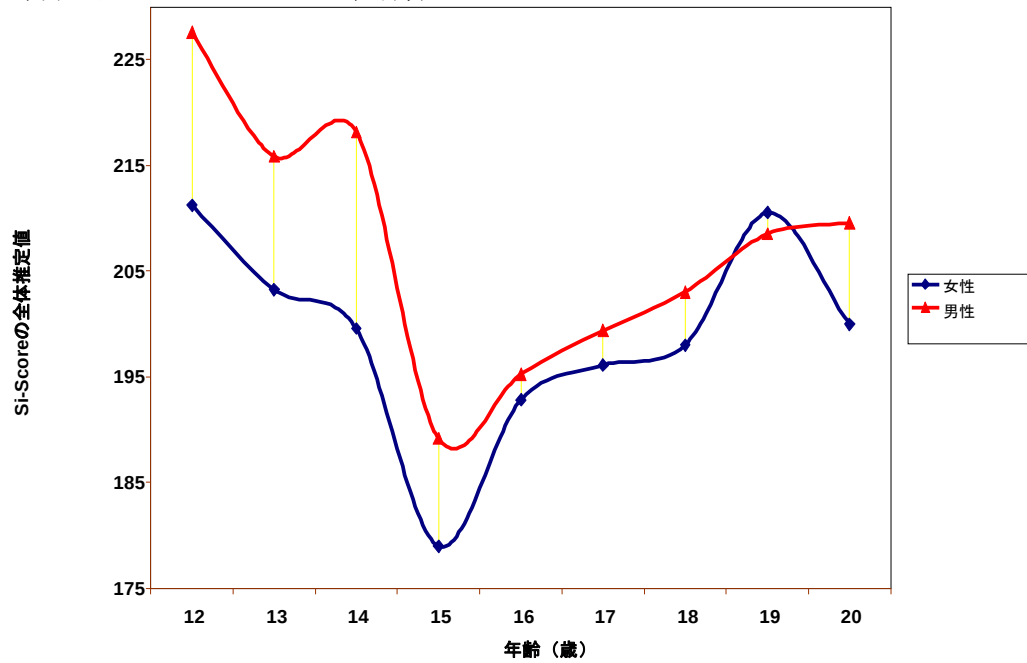
⁴ Tap, P., Hipolito, J., Pires, P., Brites, R. & Pires, M. (2006) *A new self-esteem scale (S.E.R.T.H. UAL)*. 第6回全国健康心理学会：「健康、幸福、生活の質」。Faro: Universidade do Algarve.

⁵

例えば、「すぐ怒る」という項目で、ネガティブ度が最大と認識される5を割り当てた場合、ポジティブ度が最小と認識される1が割り当てられることになります。スコアが4ならマイナス、2ならプラスと入力されます。そして、すべての項目の点数（プラスとマイナスを逆転させた点数）を合計して、総合的なプラスの自尊心の点数を出すことができません。

転させて正のグローバルスコアを得る)を用いると、性・年齢別に以下の曲線が得られる(図1、2、3)。この結果は興味深いもので、「思春期の危機」が15歳でピークに達することを示唆しています。

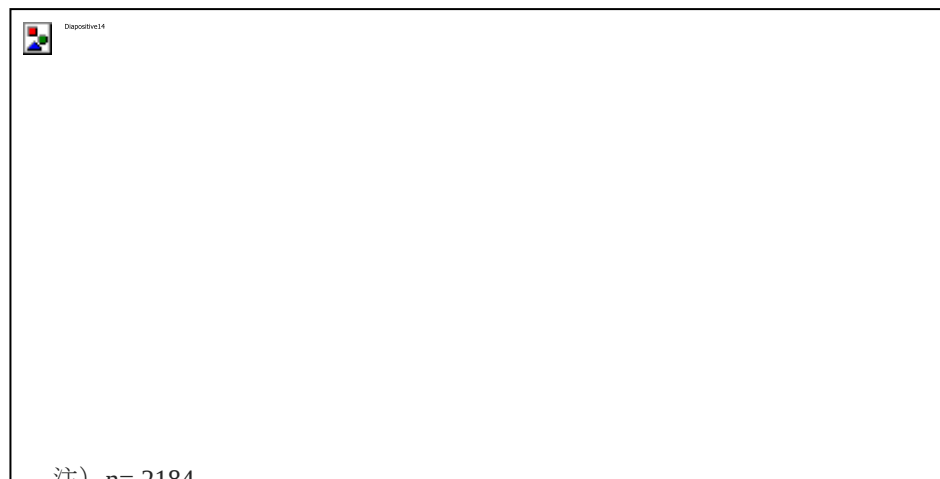
図 1.年齢・性別ごとのN.E.T.E.S.総合得点



注) n= 2184

一方、負のスコアを反転させず、正の自尊心と負の自尊心を別々に測定した場合、次の2つの曲線が得られる(図2)。

図 2.ネガティブ項目の反転がない場合のN.E.T.E.S.得点 (年齢別)



ポジティブスコア（ほぼ常に高い）とネガティブスコアで区別すると、明らかにネガティブ要素の値を反転させる方法で得られた曲線と比較的似た曲線が得られる（図1）。しかし、顕著な違いは、得られたデータの質的意義に関わるものである。

図 3.N.E.T.E.S.項目の正負（非反転）の差（年齢別



したがって、心理学的に言えば、プラスとマイナスを別々に調べ、その差を計算して最終的な結果を得るという、今回紹介した手法の方がより正しい。この例では、15歳はポジティブな項目では他のグループと同じようなスコアだが、ネガティブな項目では他のグループより有意に高いスコアを示し、より深く関わっていると感じていることがわかる。

こうした「心理的」な定性的な議論に加え、統計的な議論も重要である。古典的なインバージョン手法で開発された研究では、主成分分析により4つの因子が得られる。このうち2つのファクターは、反転項目のみで構成されている。第1因子（分散の14.94%を説明、 $\alpha=.88$ ）は、30項目の反転のうち21項目で構成されている。第4因子（分散の3.76%を説明、 $\alpha=.70$ ）は、他のすべての反転した項目を含んでいる。つまり、マイナス項目を逆にしても、共通の切り捨て機能はなくならないということです。このような結果は、いくつかのサンプルで頻繁に観察されました。

したがって、予備的な因子分析の結果、ポジティブ項目とネガティブ項目が異なる因子を生成し、交錯しないことが確認されれば、分析においてポジティブ項目とネガティブ項目を分離することが望ましいと思われる。これはまさに自尊心尺度、特にここで紹介した3つの尺度（Ro.S.E.S, N.E.T.E.S, S.E.R.T.H.UAL）がそうであると言えるでしょう。

3. 統計的正当性

3.1 妥当性

心理測定学において、妥当性は、テストに高い客観性を与え、「テストが測定しようとするものを実際に測定している程度」を決定することを可能にするため、最も重要な保証基準の1つです（Anastasi & Urbina, 2000, p. 22）。S.E.R.T.H.UALの検証の場合、内部妥当性を判断した。

内部有効性

S.E.R.T.H.UAL尺度は、上記の2つの尺度に属する項目に対して行った統計分析と、多数の参加者の回答に基づいて行った比較分析の結果であり、これにより2つの尺度で得られた結果の一致を確認できたことは既に見たとおりである。

これらの尺度は自尊心を評価するという同じ目的を持っており、また、どちらの基準尺度も高い内的妥当性を持っていることから、構成概念妥当性は高いと考えられる。

統計的検証のため、S.E.R.T.H.UALを1279人の基準サンプルに適用しました。得られたデータは、バリマックス回転による探索的主成分分析プロセスにかけられた。この手続きは、尺度を構成するポジティブ項目とネガティブ項目の違いや自然な分離を確認することを目的としています。その結果、ポジティブな項目で構成される2因子とネガティブな項目で構成される2因子の計4因子が存在することがわかり、仮説が確認されました。このように、2つの項目は分離されているため、独立した手続きを行うことが適切であると考えられた。そこで、尺度の正の項目についてはバリマックス回転による主成分分析を行い、負の項目については同様の分析を行った。

尺度の正項目についてバリマックス回転による主成分分析を行った結果、3つの因子が存在することがわかった。

第1正因子は10項目からなり、分散の30.05%を説明する（内部整合： $= .78$ ）。この因子の大きさと分散全体への影響から、この因子を構成する項目に対して、バリマックス回転による2回目の主成分分析を行った。この分析により、5つの項目からなる第1因子は分散の42.99%（ $= .76$ ）を説明し、5つの項目からなる第2因子は分散の12.06%（ $= .79$ ）を説明することがわかった。

第2正因子は11項目からなり、分散の6.69%を説明する（ $= .79$ ）。この因子の項目についてもバリマックス回転による2回目の主成分分析を行ったところ、5項目からなる第1因子が分散の35.91%（ $= .71$ ）を、6項目からなる第2因子が分散の8.64%（ $= .71$ ）を説明し、2つのサブ因子が存在することが判明した。

第3正因子は7項目からなり、分散の4.95%（ $= .72$ ）を説明する。

尺度のネガティブ項目の分析に関しては、バリマックス回転を用いた主成分分析により、3つの因子が存在することが示された。

第1ネガティブ因子は18項目からなり、分散の31.93%を説明する（ $= .92$ ）。この因子の大きさと分散全体への影響から、この因子を含む項目でバリマックス回転による2回目の主成分分析を行った。この分析により、12項目からなる第1因子は分散の42.31%（ $= .90$ ）を説明し、6項目からなる第2因子は分散の6.84%（ $= .80$ ）を説明するという2つのサブ因子の存在が明らかとなった。また、第一副因子を構成する項目については、その大きさと分散への影響から、バリマックス回転による第三主成分分析が実施された。この分析により、7つの項目からなるサブファクターが存在し、分散の47.88%（ $= .86$ ）を説明し、5つの項目からなるサブファクターが存在し、分散の7.25%（ $= .79$ ）を説明していることがわかった。

第2ネガティブ因子は7項目からなり、分散の6.53%（ $= .67$ ）を説明し、第3ネガティブ因子は5項目からなり、分散の4.71%（ $= .68$ ）を説明している。

この統計処理により、10個の因子が得られ、これが尺度を構成する10次元の基礎となった。6項目以上からなる因子では、最も因子的重みの大きい5項目を選択し、最終版のS.E.R.T.H.UALに含めることとした。

3.2 フィデリティ

信頼性の計算にはスプリットハーフ法を採用した。これは、テストの半分と半分の間の相関係数を提供するものである（効果のために「人為的に」半分に分ける、等倍処理において）。また、Spearman-Brownの式で補正を行った（表1）。

テーブル 1.Spearman-Brown補正を用いた分割半数法による次元と総尺の信頼性。

	方法		N
	スプリットハーフ	スピアマンブラウン	
ポジティブな次元	0.75	0.86	1279
負の次元	0.64	0.78	1279
フルスケール	0.71	0.83	1279

また、Cronbachの α 係数は0.86と高い値を示し、全尺度の内部整合性を統計的に評価した。また、このテストはポジティブな5次元とネガティブな5次元の2種類の項目から構成されているので、これらの「下位尺度」の内部整合性も評価した（表2、表3）。

テーブル 2.クロンバックの尺度-S.E.R.T.H.UALのポジティブな次元

寸法	
総合的な自己満足度	.84
社会的規範の拡大	.62
社会的・個人的成熟度	.77
身体的・知的な強化	.76
社会的、学問的、職業的な向上	.60
ポジティブな自尊心の一般的な指標	.91

テーブル 3. クロンバックの尺度-S.E.R.T.H.UALのネガティブ次元

寸法	
否定と自己卑下	.82
関係性の緊張	.73
異常値	.65
感情的な緊張	.67
自己嫌悪	.66
ネガティブな自尊心の一般的な指数	.86

したがって、この尺度は一般に満足できる、あるいは高いレベルの信頼性を持っており、項目に関して安定した尺度であると言える。

3.3 標準化

3.3.1 試料の特性評価

この尺度の統計的検証に使用したサンプルは、13歳から85歳までの男女1279名（男性607名、女性672名）である。各年齢層の被験者の割合がほぼ同じになるようにした（表4）。

テーブル 4. 性別・年齢層別サンプルの特徴

年齢層	男性 N %		女性 N %		TOTAL N %	
13-20年	65	11%	78	12%	143	11%
21-23歳	57	9%	93	14%	150	12%
24～26年	61	10%	60	9%	121	9%
27歳～29歳	44	7%	54	9%	98	8%
30-36歳	59	10%	79	12%	138	11%
37-44歳	65	11%	55	8%	120	9%
45-52年	66	11%	64	10%	130	10%
53～60歳	66	11%	76	11%	142	11%
61-70歳	61	10%	52	8%	113	9%

71-85年	63	10%	61	9%	124	10%
TOTAL	607		672		1279	

このサンプルは、教育レベルの観点からも特徴づけることができる（表5）。

テーブル 5. サンプルの特徴（男女別、学歴別）

学歴	男性 N %		女性 N %		TOTAL	
第4類	90	15%	94	14%	184	14%
6年目	41	7%	32	5%	73	6%
9年目	107	18%	77	11%	184	14%
12年生	157	26%	193	29%	350	27%
バカロレア	27	4%	34	5%	61	5%
ディプロマ	121	20%	188	28%	309	24%
その他	64	10%	54	8%	118	9%

3.3.2 規範となるグループ

ベースライン・サンプルから、規範グループ、すなわち結果が回答規範を構成する参加者のグループを形成した。規範となるグループは、性別、年齢、学歴を基準に形成されました。

規範表は、S.E.R.T.H.A.L.スケールの10次元それぞれについて、各グループが得た結果をパーセンタイルスコアに換算したものである。生得点をパーセンタイルに変換すると、被験者の得点分布の中心付近に分布し、この分布を規範群の平均値によって変化させ、各参加者が参照群と比較されるようになる（Cronbach, 1996）。

本書には規範となる表が含まれており、定量評価を行う際に参照することができる。

4.天秤の概要説明

S.E.R.T.H.UALスケールは60項目からなり、その人の自己認識に従って自分を位置づけるものである。数値はリッカート尺度（「全く同意しない」に相当する1から「全く同意する」に相当する5まで）により順序付けされています。

60の項目は、主成分分析（その後、バリマックス回転）の統計的手順によって、これから名前を付けて説明する、ポジティブ5つ、ネガティブ5つの10の主要な次元にグループ化された。

ポジティブな次元

A＝総合的な自己満足：自分自身について楽観的で積極的である、自分自身を良く評価している、自分自身を良く感じている、自信がある、自己主張の必要性を示していると報告されています。

B＝社会規範的拡大：人生で大きなことを成し遂げたい、社会で役割を果たしたい、連帯運動に参加したい、集団の中での仲間や人間関係を楽しみたい、といった願望を表明している人。

C ＝
社会・人間的成熟度：責任感があり、合理性と寛容性を持って、決断と実行を楽しみ、感情が成熟しており、上司を満足させたいと考えている。

D＝身体的・知的な自己価値：自分を好ましい体格と考え、自分の身体と発育を誇りに思う、自分を性的魅力と考える、野心を示す、自分を知的に評価する。
。

E ＝
社会的、学問的、職業的価値：親切な態度、他人への感謝を示す、勤勉、社交

的、自分の将来に自信がある、自分の職業や学問・学校の成績に満足している

。

負の次元

F =

否定と自己卑下：人は自分を失敗者、希望がない、誰も助けてくれない、自分を尊重しない、無気力で、出来事に対処できない、と認識している。

G=人間関係の緊張：他人が自分を避けていると感じ、孤立し、グループであまり活動せず、自分を魅力的でないと考え、自分が他人より劣っていると感じ、他人が自分を信用していないと感じる。

H=異常障害：個人的な価値観やロールモデルが少ない、性に関して動揺や不安を示す、情緒不安定である、自分を信頼するに値しないと認識している、自分を大切にしていない。

I=感情的緊張：攻撃性をコントロールできない、衝動的、怒りっぽい、神経質、緊張しやすい、中毒性のある性格、結果に落胆してしまう。

J = **Self-hostility:**

不安を感じ、自己中心的で、失敗を恐れ、自分がしていること、してきたことを評価しない。

表6に各ディメンジョンを構成する要素を示す。

テーブル 6.S.E.R.T.H.UALの10次元の項目

ポジティブな次元	ポジティブな要素
A=総合的な自己満足	7- 私は楽観的である 20- 自分に対して前向きな姿勢を持っている 21- 自己主張ができる 38- 自分自身のことをよく分かっている 45- 自分に自信がある 49- 自分のことをよく分かっている
B= 社会的規範の拡大	40- 成功すれば自分でも満足できる。 身を粉にして働く 43- 友人関係にはとても忠実である。 47- グループ活動が好き 51- 誰もが責任を持つべきだと思う 社会的一翼を担う 52- 連帯責任者運動に参加したい 54- 職場・大学で、他の人が求めているもの 我が社
C= 社会的・個人的成熟度	2- 私は責任者です 10- 普段は何かしている けつぎをいれず 14- 私は合理的な人間である 16- 私は寛容である 28- 精神的に成熟していると感じる 41- 上司・教師が満足している わたくしといっしょに
D=心理的・知的向上	8- 私は性的魅力がある 17- 私は野心家である 31- 私は知的である 37- 身だしなみは整っている 44- 自分の体に誇りを持っている 58- 自分の体の発達に満足している。
E= 社会的、学問的、職業的な評価	5- 一般的に人が好き 24- 私は親切だ 27- 私はよく働く方である 34- 私はとても社交的である 53- 自分の将来に自信がある 60- 仕事や学校の成績に満足している

負の次元	マイナスポイント
F=自己否定と減価償却	9- 自分には何の役にも立たないと思っている。 12- 無気力になる 15- 自分が物事に対処できていないと感じる 19- 自分を尊重しない 23- 私は敗者である 32- 絶望的な気分だ
G=関係性の緊張	39- 他人が私を疑っている 50- 人が退屈しているときに 我が社 55- もっと悪いことをしていると感じる ひとより 56- 自分の容姿に魅力がない 57- 集団行動では、自分から積極的に行動したい。 59- 集団になると、孤立感を感じる。
H=異常な障害	3- 自分自身の価値観や基準をほとんど持っていない。 11- 自分の判断は自分でしない 持つ 25- セックスが怖い 29- 本当に困っている 33- 私は信用できない人間である。 35- 自分には価値がない
I=感情的な緊張	4- 自分の攻撃性をコントロールすることが難しいと感じている。 13- 私は衝動的である 36- すぐ怒る 42- 自分が緊張していると思う 46- 気分がよくなるように、コーヒー、タバコ、アルコールなどの刺激物 48- 仕事や学校の成績が悪い すぐに落ち込んでしまう
J=セルフホスティリティ	1 「自分を責めることが多い。 6- 最も困難な戦いは、自分自身との戦いです。 18- 危機や困難に直面することを避けている 22- 意思決定が困難である 26- 自分が本当に望んでいることに失敗するのが怖い。 30% 自分が悪いと思う

5. アプリケーションの規格

5.1 適用範囲

S.E.R.T.H.UALは、13歳から85歳の方を対象に、個人またはグループでの申し込みが可能です。

スケールの適用に必要な総時間は、個々の特性の違いにより、10分から15分の間で変化します。スケールを中断することなく、一度に投与できるのは便利です。

この自己記入式測定器は、自尊心の個人レベルを分析し、ポジティブな自尊心指数、ネガティブな自尊心指数、ポジティブとネガティブの差からなる一般的な自尊心指数の3つのレベルを得ることができます。

また、その結果をパーセンテージで規範サンプルと照合することで、その人を規範と比較することができます。

5.2 装置

自尊心尺度の適用には、以下のことが必要である。

- アンサーシート
 - 見積書とプロフィール
- 鉛筆
 - マニュアル

このマニュアルには、尺度の構成とその開発に関する理論的情報、自尊心尺度の説明、適用規範、採点と結果のそれぞれの解釈、規範サンプルの特徴、それぞれの表、尺度を保証するための基準などが含まれています。

5.3 アプリケーションに関する注意事項

他の心理テストと同様に、適切な一般的適用手続きに従うべきである。

環境面では、アプリケーションを行う部屋は、快適な温度と良好な照明が必要です。家具は、適切な椅子とテーブルで構成されている必要があります。材料は事前に十分に準備し、セッションのために慎重に供給しておく必要があります。解答用紙は十分に用意し（団体応募の場合）、鉛筆は1人2本（1本が使えなくなった場合でも、尺度記入を中断する必要がないように）確保すること。モチベーションを高めるには、仕事に対する誠実で自発的な姿勢を促すことが必要です。本人のタスクへの関与が少ないと、偏った回答になってしまうことがあります。

この尺度の適用が簡単であるにもかかわらず、審査官は適用方法を適切に説明する必要があります。このマニュアルにない指示を追加したり、ある指示を歪めたりしないように注意しながら、スケールの記入方法を理解させるか、または繰り返し行わなければならない。スケールの記入に時間制限はありませんが、技術者は非常に長い記入時間に注意を払い、困難や可能性のあるバイアスを理解しようとする必要があります。アプリケーションが起動したら、技術者が邪魔したり介入したりすることなく、静かに解答用紙に記入する必要があります。

1. 最初から、尺度を記入する人の注意を喚起する必要がある。そして、回答の動機づけと信憑性を確保するために、測定器の目的について簡単な一般的説明を行う必要があります。
2. 鉛筆と答案用紙は、事前に用意し、：

このようなシートがあるかどうか確認してください（表示）。ある場合は、シートの上部に要求された詳細を記入してください：名前、年齢、学歴⁶。

6

注：検索アプリケーションの場合、不要な識別子や回答の匿名性を損なう可能性のある識別子は削除することができます。

3. 個人情報の記入後、一括応募の場合はラダーの指示が読み上げられる。
個別のアプリケーションの場合、技術者の立会いと注意のもと、本人が黙読し、疑問を解消することができます。

以下は、ステートメントの一覧です。1（強く反対）と5（強く賛成）を考慮し、現在のあなた自身の認識に従って、それぞれにチェック（×印）を入れてください。すべての質問に正直に答えるようにしてください。正解も不正解もない。テスト終了までの時間制限はありません。

本人が終了したら、試験官はすべての項目が終了していることを確認すること。もし、そうでなければ、試験官はその人に空欄を埋めてもらい、困難を明らかにするよう、十分な注意を払う必要があります。

5.4 スコアリングとレーティング

この尺度によって、その人の自尊心にアクセスすることができ、尺度の各次元で得られたスコアによって構成される個人プロフィールを得ることができます。また、個人の結果と規範サンプルの結果をパーセンテージで比較することも可能です。

本人が尺度の各項目に帰属する値をレーティングシートの各次元に記入することで、それぞれの平均点と合計点を算出できる。これらの結果から、同じシートに存在する一般的なポジティブ自尊心指数と一般的なネガティブ自尊心指数、およびポジティブ指数とネガティブ指数の差から生じる一般的な自尊心指数の個人プロフィールを作成することができます。

また、各次元で得られた結果は、それぞれの参照表により、標準的なサンプルとの比較も可能です。各項目の平均値をパーセンテージに換算し、基準グループとの関連付けを行うことができます。

6.結果の解釈

自尊心尺度では、定量的（個人間）な評価と定性的（個人内）な評価の2種類が可能である。これらの結果から、一般的なポジティブ自尊心指数、一般的なネガティブ自尊心指数、ポジティブとネガティブの差の結果である一般的な自尊心指数を通して、自尊心のレベルにアクセスし、理解することができるのです。

6.1 定量的評価

この評価によって、自尊心の各次元との関連で、各人を参照集団との関係で位置づけることができます。得られた結果と規範となるサンプル群の結果をパーセンテージで比較することで行われる（プロファイルシート）。

6.2 定性的評価

個人のプロファイルから展開される個人内分析である。これにより、自尊心のポジティブな次元であれネガティブな次元であれ、その人の自己認識においてどの領域が最も重要であるかを知ることができ、この分析からポジティブな自尊心の一般指数とネガティブな自尊心の一般指数のプロファイルを作成することができるのである。

我々は、一般論として、結果の解釈のためのガイドラインを提案するが、このプロセスは常にその人の生活史と個人の特性に基づいて実施されなければならない。

6.2.1 ポジティブな側面

A-総合的な自己満足度

この次元のスコアが高い人は、自分自身に対して楽観的でポジティブな見方をしており、自信があり、自分や他人を主張する必要性が明確であると認識されます。

B - 社会的規範の拡大

この次元のスコアが高い人は、一般的に非常に重要な目標を達成し、社会で役割を果たしたいという願望があることを明らかにします。連帯の運動に参加しようとし、対人関係、集団関係を大切にする。

C - 社会的・個人的成熟度

この次元のスコアが高いということは、その人が自分自身を認識し、責任を感じていること、意思決定だけでなく、それをやり遂げることも好きであることを示しています。合理的な思考と寛容さを大切にし、情緒的な成熟を示す。目上の人を満足させることが好きな人が多い。

D - 知的・心理的な向上

この次元のスコアが高い人は、身体的属性（性的魅力や自分の身体に誇りを感じている）、知的能力（向上心や知性など）の両面で、自分の身体を極めて肯定的に認識していることを示しています。

E - 社会的、学問的、専門的能力の開発

この次元のスコアが高い人は、自分を親切で、感謝し、勤勉で、社交的だと考えています。彼らは将来への自信を示し、仕事、学業、学校の成績に満足しています。

6.2.2 ネガティブな次元**F - 否定と自己卑下**

この次元のスコアが高い人は、自分を希望がないダメな人間だと考えています。誰も助けてくれないと感じ、自尊心もなく、無気力になってしまうのです。自分自身が人生の出来事に対処できないと思っている。

G - 関係性の緊張

この次元のスコアが高いということは、その人が自分を魅力的でないと認識しており、他者から避けられていると感じていることを示しています。他人から孤立しがちで、集団の中ではあまり積極的になれず、自分は魅力がない、他人より劣っている、他人から信用されないと思い込んでしまうのです。

H - 異常値

この次元のスコアが高いということは、その人が価値観や原則、あるいは個人的なロールモデルをほとんど持っていないと認識されていることを示しています。情緒不安定で、セックスに対して恐怖心を抱いている。自分自身を完全に軽んじており、自分は誰の信頼にも値しないと考えている。

I - 感情的な緊張

この次元のスコアが高い人は、自分の攻撃性をコントロールできないと感じ、しばしば衝動的で怒りっぽく、神経質で緊張感のある感情を持つ。中毒的な性格で、結果に落胆することが多い。

J - 自己嫌悪

この次元のスコアが高い場合、その人は非常に不安で、極端な受動性とエネルギーの欠如を感じていると認識されていることがわかります。彼らは常に失敗を恐れ、自分の成果を常に過小評価していることがわかる。内面的な葛藤を解決できず、危機的な状況や困難に対処できないと感じている。

表：年齡層13-20歲

表：21～23歳の年齢層[illegible]

p. 32 表：年齡層30～36歲

[illegible]

表：年齡層37~44歲

[illegible]

p. 33 表：年齡層45～52歲

[illegible]

表：年齡層53～60歲

[illegible]

p. 36 表：學業成績 - 9 年生

[illegible]

表：學歷 - 12年生

[illegible]

[illegible]

8.参考文献

Anastasi, A. & Urbina, S. (2000). 心理テスト。ポルト・アレグレアートメッド

Coll, C., Marchesi, A. & Palacios, J. (2004). *Desenvolvimento Psicológico e Educação: Psicologia de Educação Escolar* (3ª Ed.). ポルト・アレグレアートメッド

クロンバッハ、L. (1996). 心理テストの基礎。ポルト・アレグレアートメッド

グラモン、D.L. (1969年)。治療動機のある人の時間依存的な性格変化。Cで。ロジャース&R.ダイヤモンド（編）『心理療法とパーソナリティの変化（第6版）』。Chicago: The University of Chicago Press（原書は1954年に出版された）。

Oubrayrie, N.; Safont, C. & Tap, P. (1991) Personal Identity and Social Intelligence.社会的) 自尊心について。Liege, *Cahiers Internationaux de Psychologie Sociale*.9-10, 63-76

Oubrayrie N., Leonardis, M. , & Safont, C. (1994).自尊心の評価ツール：ETES。 *European Journal of Applied Psychology*, 44 (4), 309-317.

Pires, M. (2004) *Aditividade e Auto-Estima: 比較研究*。第5回健康心理学全国大会にて発表した論文。リスボン：カルースト・グルベンキアン財団。

ロジャース、C.とダイヤモンド、R. (1969) 。 *Psychotherapy and Personality Change* (6th Ed.) Chicago: The University of Chicago Press (original published in 1954).

ロジャース、C. (1951) 。クライアント中心のセラピー。ボストン：ホートン・ミフリン

Tap, P., Hipolito, J., Pires, P., Brites, R. & Pires, M. (2006) *A new self-esteem scale (SERTHUAL)*.第6回全国健康心理学会：「健康、幸福、生活の質」。Faro: Universidade do Algarve.

タップ、P.&ヴァスコンセロス、M. de L.(2004).不安定さと心理的な弱さ。フランスとポルトガルの比較。コインブラ：ビサヤ・バレット財団。

タップ、P.、ヒポリート、J.、ヌネス、O.&サントス、R. (2004年)。ロジャーズ自尊心尺度 (UAL) と新しいトゥールーズ自尊心尺度- NETESのポルトガル語版検証。第9回欧州青年研究協会大会。ポルト

Tap, P. (1998).序文M. BologniniとY. プレタポルテ (Aut) 。自尊心：発達の視点、心理学の基本テキスト。ジュネーブ：デラショー・エ・ニースレ。

タップ・P. ピグマリオン協会？社会的統合と個人的充足パリ：デュノー